

阪神西部（武庫川流域圏）地域総合治水推進計画

< 神戸市における主要な取組み >

洪水調節池の整備

- 神戸市では、洪水対策として、市が管理する準用・普通河川の改修や洪水調節池の整備をしています。
- その一環として、二級河川有野川の支川である鎌ヶ谷川において、洪水調節池を整備しています。



鎌ヶ谷川における洪水対策

- 鎌ヶ谷川では、川幅が狭いことなどから、過去に水が溢れるなどの被害が発生しました。
- 川沿いにたくさんの家屋等があり、川を拡げるためには多くの時間・費用がかかることから、既存のため池（鎌ヶ谷大池）を改修して洪水調節機能を持たせ、流れる水の量を少なくしています。
- さらに、上流において新しい洪水調節池の整備を進めています。

2号調節池(建設中・R6完成予定)



鎌ヶ谷大池(R3完成)



所在地: 神戸市北区有野町唐櫃



ネック部改修(R3完成)



阪神西部（武庫川流域圏）地域総合治水推進計画

＜ 尼崎市における主要な取組み＞



(1) 学校・公園

○計画地域内に位置する学校の校庭に雨水貯留施設を整備し、敷地に降った雨水を一時的に貯留することで、武庫川への雨水の流入を抑制し、洪水災害の防止を図るものです。

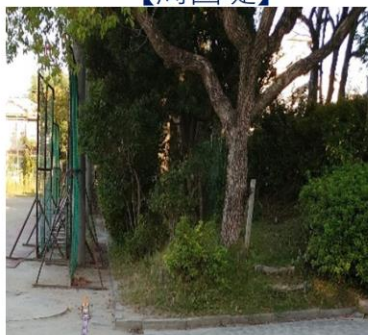
○尼崎市では令和4年度に市立常陽中学校において貯留量923m³の雨水貯留施設を整備しました。

整備前

【集水桝】



【周囲堤】



整備後

【集水桝】



【周囲堤】



【周知看板】



【校庭貯留イメージ】



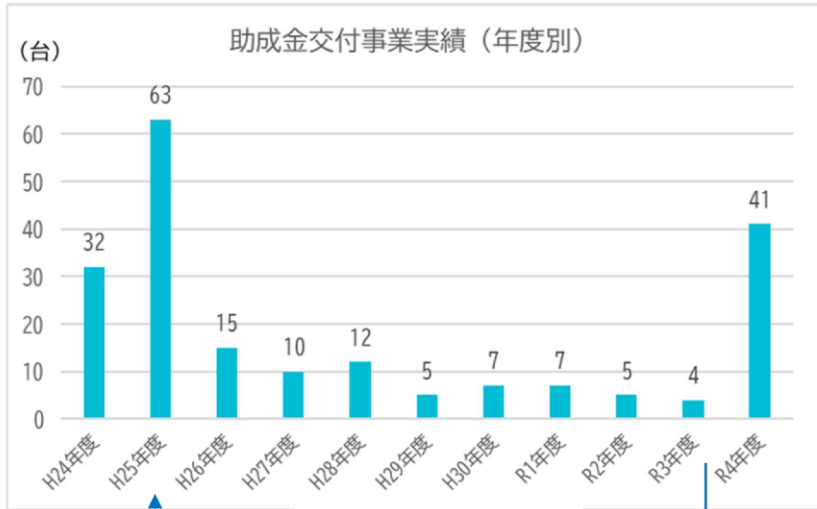


(2) 土地等の雨水貯留浸透機能

○建物の屋根に降った雨を雨どいから集め、貯めるための雨水貯留タンクの設置に係る助成をしています。

○地域で使えるコインによる還元や電子申請などにより、令和4年度以降は申請件数が増加しています。

【雨水貯留タンクの設置助成】



市報表紙掲載



制度拡充



(3) 浸水による被害の軽減に関する学習

○地域の防災力向上を図るため、地域における防災力向上講座による防災マップづくりを行っており、令和5年度末現在、全自主防災会75地区のうち73地区で完成しています。

○マップづくりは、①マップづくりや防災に係る講座、②各班に分かれてのまち歩き、③マップ素案の作成を基本にして実施しています。



【①講座】



【③マップ作成・校正】



【②まち歩き】



阪神西部（武庫川流域圏）地域総合治水推進計画

< 西宮市における主要な取組み >



■土地等の雨水貯留浸透機能

下水道対策：南部地域での浸水対策

合流貯留管整備



西宮市では、道路（臨港線）地下約20mの深さに**合流貯留管**の整備を行っています。

【主な目的】 浸水対策

既存の下水道管で排除しきれない雨水を、貯留管に一時的に貯めることで浸水被害を軽減します。

【概要】

- ・ 事業期間：平成27年～令和26年（予定）
- ・ 貯留量：約52,000m³
- ・ 延長：約6,300m
- ・ 内径：φ2.6m～3.25m

芦屋市

甲子園球場

尼崎市

<合流貯留管完成写真>



合流貯留管<106路線>

合流貯留管<106路線>
令和2年6月～
貯留容量約7,000m³の供用開始

西宮東高校グラウンド
(到達部)

臨港線

施工中

上田第二公園
(発進部)

枝川浄化センター

甲子園浜浄化センター

浜甲子園運動公園

----- 合流貯留管計画ルート



■土地等の雨水貯留浸透機能

流域対策：

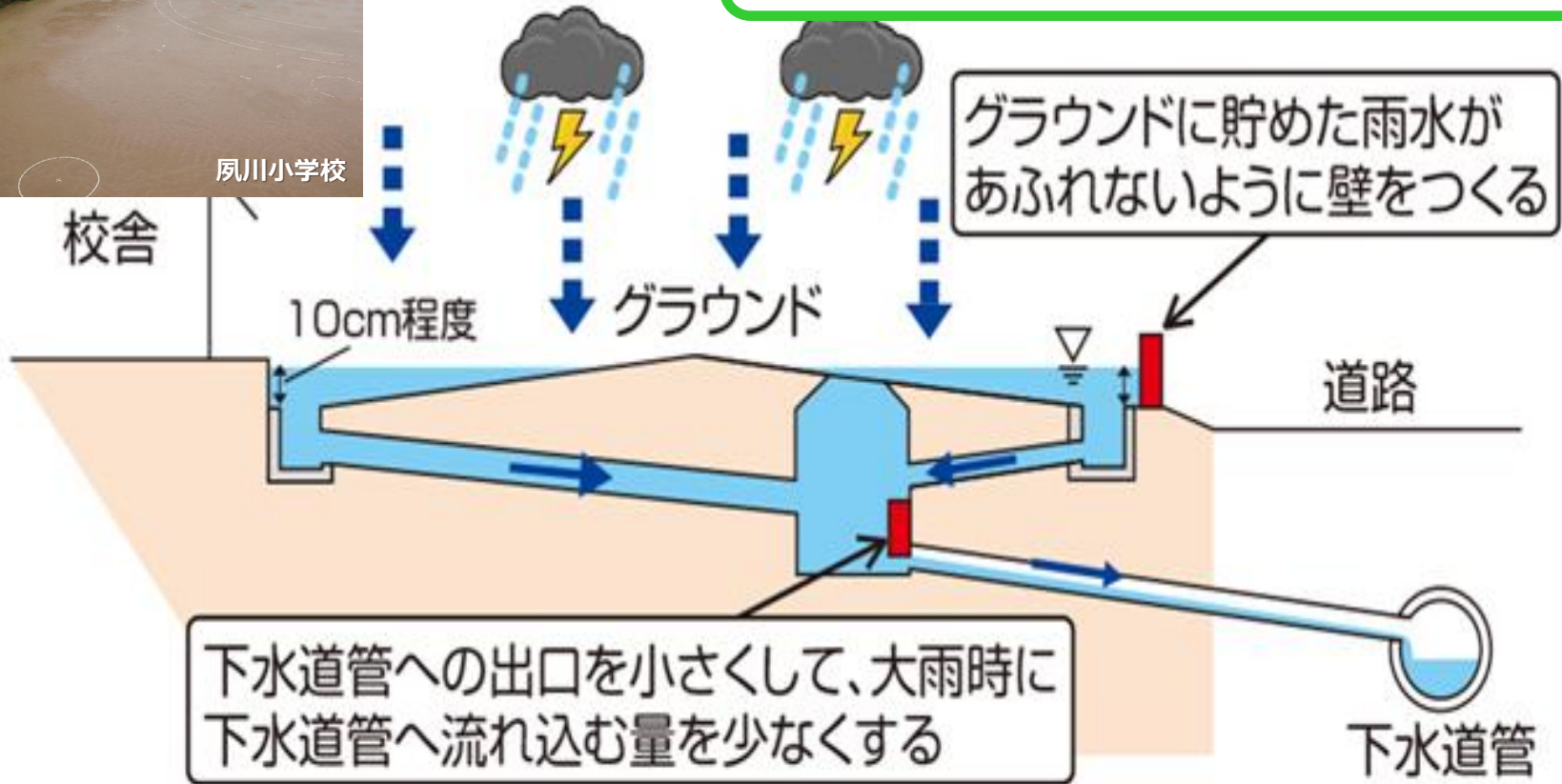
校庭貯留による浸水対策



学校のグラウンドに降った雨について、周囲の嵩上げ・放流口の狭小化をすることで、雨水の流出を抑制し、グラウンド表面に貯留を行う浸水対策（**オンサイト施設**）の整備を行っています。

【概要】

- ・事業期間：平成12年～
- ・実施箇所：59校（令和5年度末時点）
- ・総貯留量：約19,000m³





流域対策：

➡ 流出抑制対策（貯留・浸透） の指導

<透水性舗装状況写真>



<浸透雨水枿・浸透管状況写真>



開発事業（概ね敷地面積500m²以上）の場合、開発後に雨水の流出量が増大しないように、流出抑制を指導しています。

【概要】

- ・貯留施設：93箇所（令和4年度末時点）
- ・浸透施設：多数（浸透枿、浸透管、透水性舗装他）





流域対策：

➡ 雨水貯留タンク・止水板設置助成

＜貯留タンク設置状況写真＞



- ・ 各ご家庭での雨水貯留施設（雨水タンク）や雨水浸透施設（浸透ます）の設置に対し助成制度を設けています。
- ・ 側溝や下水道管へ流れ込む雨水を少しでも減らして浸水被害の軽減を図るとともに、雨水を土に返して健全な水環境を構築することを目的としています。
- ・ 雨樋に集水継手を取り付けて、屋根に降った雨を雨樋からタンクに貯める施設で、貯めた水は庭や植木への水やりに利用でき、水道料金の節約にもなります。

【概要】

- ・ 事業期間：平成23年～
- ・ 実施箇所：321件（令和6年1月時点）

＜止水板設置状況写真＞



- ・ 各ご家庭での止水板（防水板）の設置に対し助成制度を設けています。
- ・ 大雨のときに下水道の雨水の排水機能が追いつかず、側溝やマンホールから雨水が溢れ出した時にも、止水板を設置していただくことにより、建物内部への浸水被害の軽減を図ることを目的としています。

【概要】

- ・ 事業期間：平成28年～
- ・ 実施箇所：24件（令和6年1月時点）

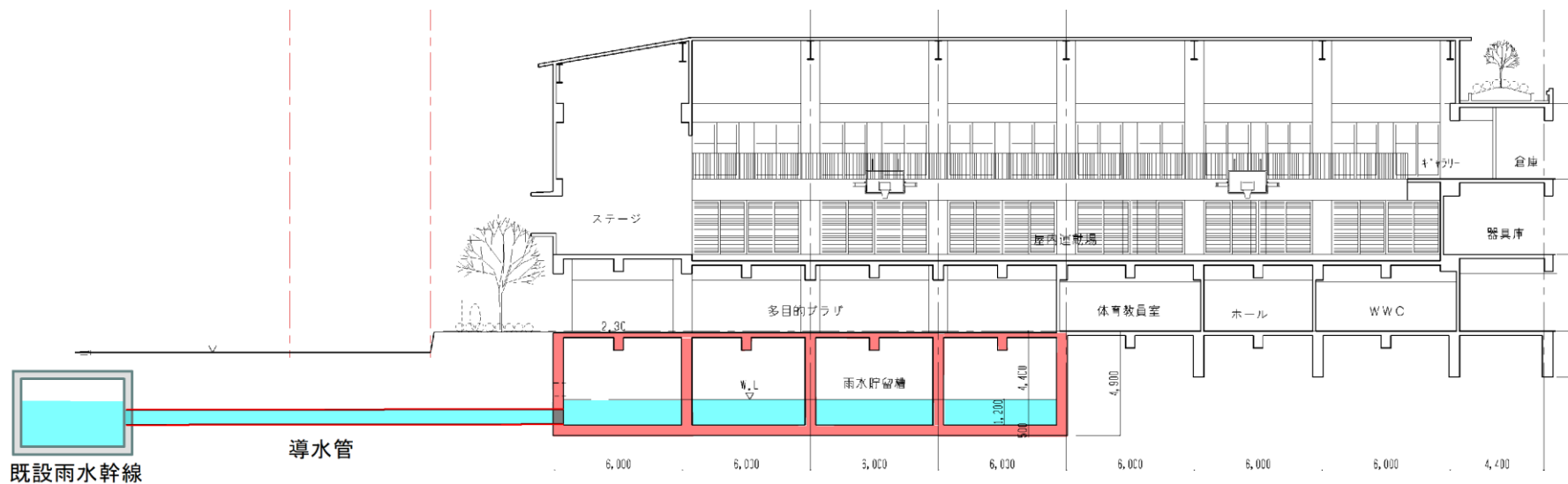
阪神西部（武庫川流域圏）地域総合治水推進計画

< 芦屋市における主要な取組み >

(1) 校舎地下ピットを雨水貯留槽に活用

- 令和4年度に市立中学校の建替時に校舎の地下ピットを活用して雨水貯留槽（1050m³）を整備しました。
- 建替工事と調整を図ることで、貯留槽となる構造物は建築工事で行い、下水部局で接続工事を行うことで効率的に整備を行う事が出来ました。
- 隣接する雨水幹線から導水管を經由させて貯留槽に流入させる構造ですが、地盤面と整合を図ることで、排水ポンプを要しない構造としています。

【校舎地下ピット貯留槽イメージ図】



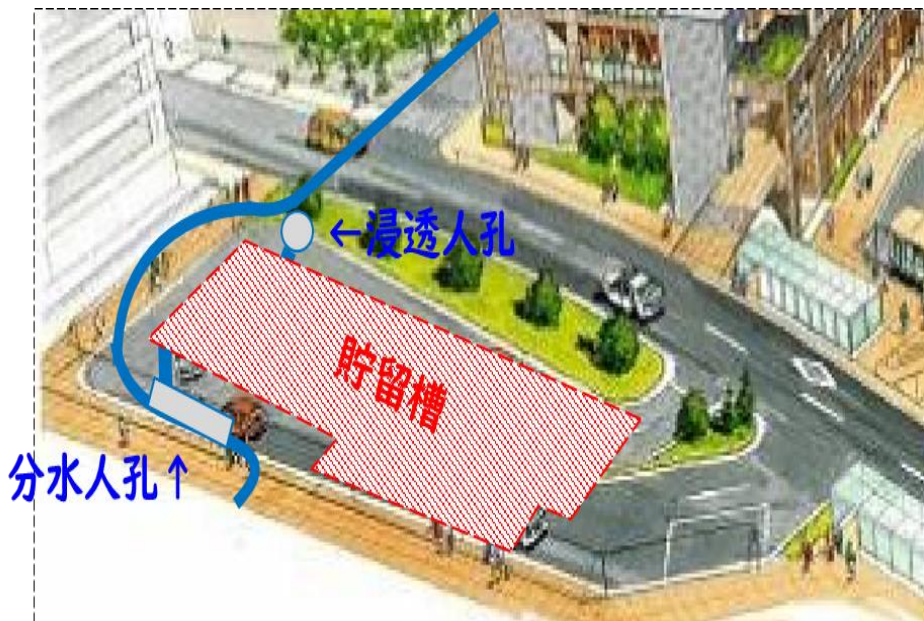


■土地等の雨水貯留浸透機能

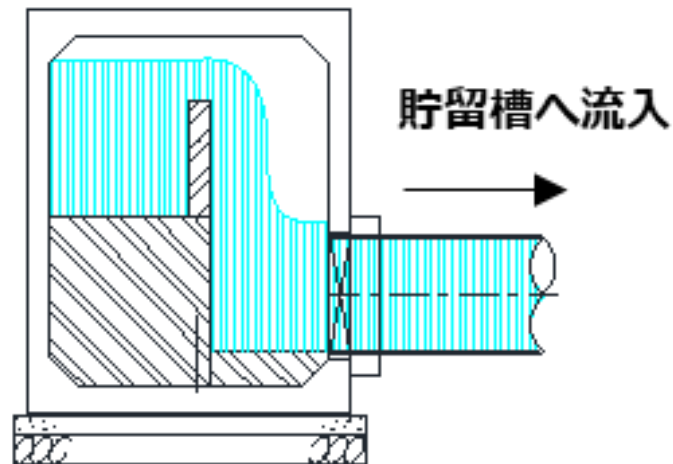
(2) 駅前再開発事業に併せて雨水貯留槽を整備

- 本年度から、JR芦屋駅前の再開発事業に併せて、車両ロータリ一部地下に雨水貯留槽(770m³)の整備を令和6年度竣工を目途に進めています。
- 既設の雨水幹線を一部迂回させ、分水人孔に越流堰を設ける構造としています。
- 浸透人孔及び透水管を設ける事で、排水ポンプを要しない構造としています。

【駅前貯留槽整備イメージ図】



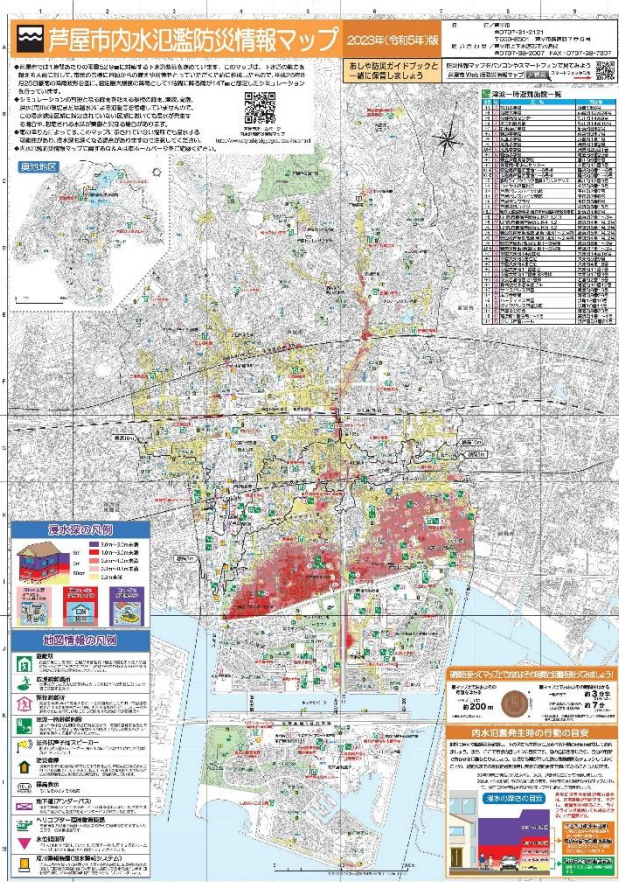
【分水人孔越流堰断面図】



(1) 内水ハザードマップの公表

○ 想定最大規模降雨（降雨強度147mm/h）時のシミュレーションを基にした内水ハザードマップを作成し、ホームページへの掲載と全戸配布に加えて、英語・中国語・韓国語に対応したweb版を公表し、広く周知に努めました。

○ 今年度の総合防災訓練においてハザードマップのブースに説明職員を配置して参加者への説明を行いました。




内水氾濫と洪水(外水氾濫)の違い

大雨を知る

大雨の時のお願い

雨水貯留タンクの設置

避難情報など

豪雨時の情報入手について

その他参考になる情報

このポスターは、大雨時の防災対策に関する情報を提供しています。内容は、内水氾濫と洪水の違い、大雨を知る、大雨の時のお願い、雨水貯留タンクの設置、避難情報など、豪雨時の情報入手について、その他参考になる情報などです。

(2) 下水道フェスタの開催

- 下水道の日9月10日に下水道フェスタを開催しました。
- 処理場見学を含め12のブースを用意しましたが、いずれも好評でした。
- マスコミにも取り上げられ、お子さんをはじめ877人のご参加をいただきました。

周知ビラ



テレビ取材



処理場見学



排水実験



マンホール塗り絵



(3) 情報一斉配信システム及び防災ポータルサイトの構築（令和6年度）

○防災行政無線システムの更新及び防災情報システムの導入により、市民への防災情報の発信力を強化します。

・ 情報一斉配信システムの構築：防災行政無線システムの操作卓から複数の情報伝達手段に対して一斉に配信することができます。

（防災行政無線、戸別受信機、緊急告知ラジオ、J:com端末、Facebook、X、ひょうご・あしや防災ネット、Yahoo!防災等）

・ 防災ポータルサイトの構築：防災情報システムの情報を活用し、専用サイトで市民向けに公開します。
（気象情報、避難発令情報、避難所情報等）

○一人でも多くの市民へ防災情報を伝達し、市民が災害発生時に迅速かつ適切な避難行動がとれるよう支援します。

情報一斉配信システム

操作卓



ワンオペレーション

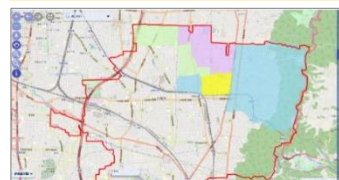
情報共有

情報伝達手段



防災ポータルサイト

防災情報システム



情報を登録
発令判断

インターネット公開

防災ポータルサイト



令和5年度 第2回 阪神西部（武庫川流域圏）
阪神東部（猪名川流域圏）地域総合治水推進協議会

地域総合治水推進計画に係る
伊丹市の取組みについて



◆伊丹市における下水道(雨水)の概要

【 地域総合治水推進計画 (1. 河川下水道対策) (2)下水道対策 】 ※伊丹市公共下水

◎計画降雨量(46.8mm/h)に対する施設整備を実施
《雨水ポンプの改築や更新、幹線管渠の整備》

◎面整備率(令和4年度末時点)

◆東部(猪名川流域)87.3%

◆西部(武庫川流域)75.0%

} 全域 83.9%

◆地域総合治水に係る伊丹市の主な取組み

※雨水貯留タンク設置助成

【 地域総合治水推進計画 : 2. 流域対策
6 その他の雨水貯留・浸透の取組 (2)各戸貯留 】

◎概要:住宅等の雨水を貯留し、生活水として活用。
『雨水貯留タンク』の設置に際して購入費、工事費総額の1/2以内、3万円を上限に助成。

◎事業開始:平成23年度～

◎助成件数:令和4年度末現在
203件の助成

(内訳)

東部(猪名川流域)132件

西部(武庫川流域) 71件



◎雨水の用途について

- (1)庭木・花壇への水やり
- (2)外構清掃等の節水対策
- (3)災害発生時の生活水活用(トイレ、清掃等)

◎近年の動向について

※事業開始当初に比して年々、問合せや申請件数が減少傾向にあった。(年数件程度の申請で推移)



※令和6年1月1日に発生した能登半島地震に伴い、ライフラインが長期途絶したニュース報道から生活用水(非常用水)に対する市民の関心が高まり、問い合わせ件数が増加している。

◆地域総合治水計画に係るその他の取組み

※瑞ヶ丘雨水調整池、瑞ヶ丘二号雨水調整池

阪神東部(猪名川流域)地域

- 【 地域総合治水推進計画 :
2. 流域対策
6 その他の雨水貯留・浸透の取組 】

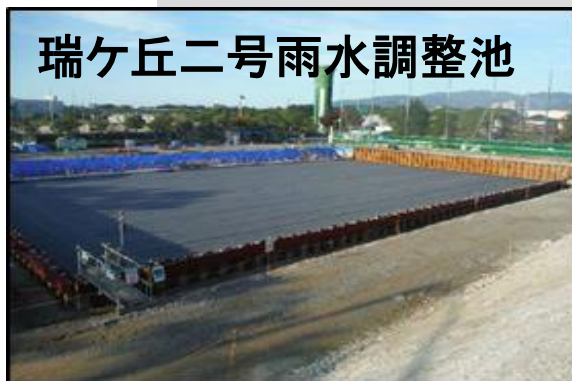


瑞ヶ丘雨水調整池

◎概要:平成16年度、計画降雨

(46.8mm/h)の対策として瑞ヶ丘野球場の地下に縦55m、横12m、高さ3.5mの瑞ヶ丘調整池を整備。また、平成26年9月の豪雨被害(96mm/h)を受け、

超過降雨対策として令和2年度に瑞ヶ丘二号雨水調整池(縦53m、横34m、高さ1.2m)を整備。合計最大貯留容量、約5,000m³を確保。



瑞ヶ丘二号雨水調整池

◆伊丹市新庁舎における雨水貯留について

※2022年11月開庁の新庁舎に雨水濾過装置
や雨水利用槽の他、雑水用の調整槽を整備

◎ 2025年3月市民(防災)広場を含めグランドオープンの
市庁舎は敷地面積約2万 m^2 (排水エリア面積は11,565 m^2)。

◎排水エリア面積の内、8,605 m^2 は調整槽(700t)へ、また、
2,960 m^2 は雨水利用槽(250t)に集水。【有効水深は1.5m】

※利用槽の雨水は、トイレ洗浄用や屋上緑化、外構植栽の
灌水に利用。(衛生上、直接人が触れない利用が基本)

※市庁舎の浸水対策として当初の地盤高より40cm地上げ。

伊丹市庁舎



屋上緑化

